

# 長崎県における梅毒の追加調査について（令和6年度）

長崎県感染症情報センター（長崎県環境保健研究センター）

梅毒は、感染症法上5類全数届出疾患に指定されている性感染症で、1960年代以降減少が続いていたが、2011年から増加に転じ、2019、2020年に一旦減少したものの2021年から再び増加し、2023年には全国、長崎県いずれにおいても過去最多の報告数となった。五類全数報告感染症である梅毒は、疫学情報の収集が難しく、効果的な対策を講ずることが困難である。増加する梅毒の対策に役立てるための疫学調査の強化を目指し、発生届に付随する県独自の調査票を作成して、2024年5月から調査を行った。

## はじめに

梅毒は、梅毒トレポネーマを病原体とする感染症で、主に性的接触により感染する<sup>1)</sup>。無症状の場合もあるが、感染から3～6週間後に初期硬結や硬性下疳・鼠径部リンパ節腫脹などの感染部の病変が生じ、無治療で3か月以上経過すると、発疹、発熱、倦怠感などの全身症状に移行する。さらに無治療のまま数年から数十年が経過すると、ゴム腫や神経症状等重篤な症状を呈する場合がある。また、妊娠中に感染すると、胎児に感染し先天梅毒を引き起こす可能性がある。

国内の梅毒患者は2021年頃から急激に増加しており<sup>2)</sup>、本県においても2023年に過去最多の147件の報告があった。先天梅毒の症例はなかったものの、妊婦の感染例もあり、注意が必要な感染症となっている（図1）。

一方で、梅毒は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下、「感染症法」という。）における五類全数把握対象疾患で、診断した医師により全例届出が行われているが、疫学情報は医師が発生届に記載した内容に限定されるため、得られる情報は限られ、詳細な患者情報や感染経路の究明は困難である。そこで、県内の梅毒患者の詳細な情報を収集し、感染拡大の要因の究明および感染対策立案に寄与することを目的として、長崎県独自で調査を実施したので報告する<sup>3)</sup>。

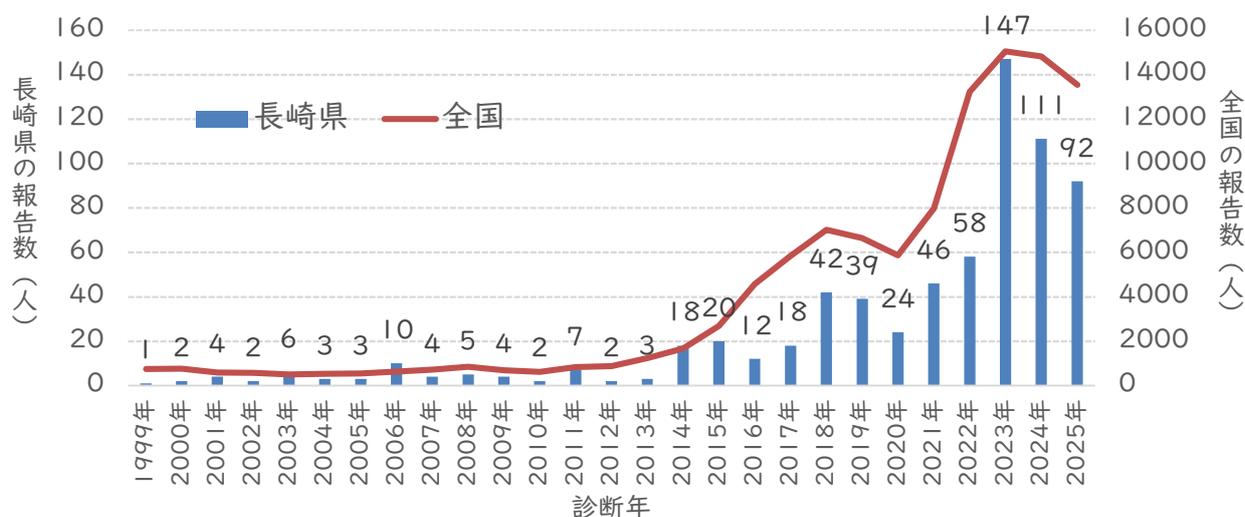


図1 梅毒の報告数推移

## 材料と方法

### 1 調査方法

令和6年5月1日に施行された「梅毒発生届時の追加調査実施要領」に基づき、県内の医療機関において梅毒と診断された患者に対し主治医より追加調査について説明後、調査票（様式1）による聞き取りが行われた。調査票は感染症法第12条に基づく感染症発生届とともに、①最寄りの保健所にFAX等により提出、②感染症サーベイランスシステムの医療機関用備考欄へ入力、のいずれかの方法により回収した。調査結果の集計・解析は長崎県感染症情報センター（長崎県環境保健研究センター）にて行い、長崎県地域保健推進課に定期的に報告した。また、保健所に情報共有するとともに、長崎県エイズ・性感染症専門部会において、報告を行った。

なお、本調査は感染症法第15条の積極的疫学調査として、実施された。

### 2 調査対象

令和6年5月1日から令和7年3月31日までに県内の医療機関で梅毒と診断された患者91例のうち、追加調査への協力が得られた63例を対象とした。

## 結果

### 1 調査票の回収率

調査期間に届出のあった梅毒患者は91件で、性別の内訳は男性59件（64.8%）、女性32件（35.2%）であり、そのうち追加調査の協力が得られた63例の内訳は、男性39例（61.9%）、女性24例（38.1%）であった。追加調査票の回収率は全体で69.2%、男性66.1%、女性75%であった（表1）。男性では、概ね6割以上の調査協力が得られたが、女性では10代の回収率が低く、情報を得ることが難しかった。

届出保健所別、診療科別、患者類型別の回収率を表2～4に示す。診療科別では、皮膚科、泌尿器科、婦人科のいずれも標榜していない「その他」の医療機関からの調査協力はなかった。患者類型においては、「患者」と比べて「無症状病原体保有者」で回収率が低かった。

表1 性別、年代別の回収率

全体	男性			女性							
	届出	調査票	回収率(%)	届出	調査票	回収率(%)	届出	調査票	回収率(%)		
全年齢	91	63	69.2	全年齢	59	39	66.1	全年齢	32	24	75.0
10代	5	3	60.0	10代	1	1	100.0	10代	4	2	50.0
20代	33	22	66.7	20代	15	10	66.7	20代	18	12	66.7
30代	13	9	69.2	30代	10	6	60.0	30代	3	3	100.0
40代	19	14	73.7	40代	16	11	68.8	40代	3	3	100.0
50代	16	11	68.8	50代	13	8	61.5	50代	3	3	100.0
60代	3	3	100.0	60代	3	3	100.0	60代	0	0	
70代	1	1	100.0	70代	0	0		70代	1	1	100.0
80代～	1	0	0.0	80代～	1	0	0.0	80代～	0	0	
年齢中央値	35.0	38.0		年齢中央値	41.0	41.0		年齢中央値	25.0	25.0	
年齢平均値	37.4	37.6		年齢平均値	41.1	40.2		年齢平均値	30.6	32.1	

表2 届出保健所別の回収率

保健所	届出	調査票	回収率(%)
県全体	91	63	69.2
長崎市	37	32	86.5
佐世保市	26	13	50.0
西彼	3	2	66.7
県央	16	11	68.8
県南	4	2	50.0
県北	2	2	100.0
五島	0	0	
上五島	0	0	
壱岐	1	0	0.0
対馬	2	1	50.0

表3 類型別の回収率

		届出	調査票	回収率(%)
全体	患者	66	51	77.3
	無症状病原体保有者	25	12	48.0
男性	患者	45	34	75.6
	無症状病原体保有者	14	5	35.7
女性	患者	21	17	81.0
	無症状病原体保有者	11	7	63.6

表4 医療機関別の回収率

	届出	調査票	回収率(%)
総合	30	17	56.7
泌尿器科	25	22	88.0
婦人科	23	19	82.6
皮膚科	6	4	66.7
泌尿器科&皮膚科	2	1	50.0
その他	5	0	0.0

## 2 調査結果

### 1)患者情報

患者の居住地は、63件中59件(93.7%)が「県内」で、「県外」が2件、「不明」および入力のないものが各1件であった(図2)。患者の居住地と診断した医療機関所在地が異なる事例が16件あったが、近隣の各市町の医療機関を受診した場合、基礎疾患等がある場合、梅毒病期(晩期等)に応じた対応が必要な場合などが推測された。

患者の国籍は、62件が日本、1件が国外であった。

職業は53件が「有職」、1件が「学生」、4件が「無職」、2件が「その他」であった。

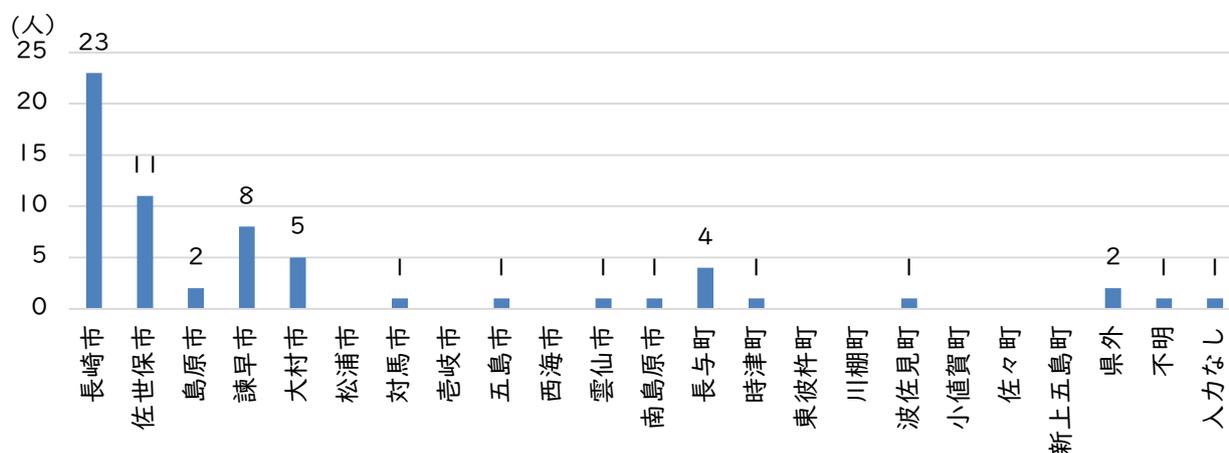


図2 居住地別患者数

## 2) 診療・検査情報

受診理由は、男女とも「有症状」が最多で、全体の約7割を占めた（表5）。次いで、男性では「梅毒陽性者（疑い含む）との性行為」、女性では「術前検査」および「その他」が多かった。受診理由の「その他」には、他疾患・他症状での採血や献血時の検査で陽性となった事例などが含まれる。

性感染症の罹患歴について、約半数に罹患歴があった（表6）。調査に協力のあった女性の約3割に性器クラミジア感染症、1割以上に性器ヘルペスウイルス感染症の罹患歴があった。

表5 受診理由（複数回答）

	全体 (n=63)		男性 (n=39)		女性(n=24)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
有症状	44	69.8	28	71.8	16	66.7
健診	1	1.6	1	2.6	0	0.0
妊婦健診	2	3.2	0	0.0	2	8.3
術前検査	5	7.9	2	5.1	3	12.5
保健所の検査	0	0.0	0	0.0	0	0.0
陽性者（疑い含む）との性行為	10	15.9	8	20.5	2	8.3
感染の不安	3	4.8	3	7.7	0	0.0
その他	7	11.1	4	10.3	3	12.5
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表6 性感染症罹患歴（複数回答）

	全体 (n=63)		男性 (n=39)		女性(n=24)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
なし	33	52.4	21	53.8	12	50.0
性器クラミジア感染症	9	14.3	2	5.1	7	29.2
性器ヘルペスウイルス感染症	6	9.5	2	5.1	4	16.7
淋菌感染症	3	4.8	1	2.6	2	8.3
尖圭コンジローマ	3	4.8	2	5.1	1	4.2
B型肝炎	5	7.9	4	10.3	1	4.2
その他	5	7.9	4	10.3	1	4.2
不明	9	14.3	7	17.9	2	8.3

### 3) パートナーに関する情報

性的接触のあった相手は、男性では「性風俗産業従事者」が最も多く、約半数を占めた（表7）。「マッチングアプリ、SNSで知り合った相手」や「不特定多数の相手」との回答もあった。女性では、「特定のパートナー」が最も多かった（87.5%）が、「性風俗産業利用者」も3件あった。男性の回答を年代別にみると、40代、50代、60代で「性風俗産業従事者」が最多であった（表8）。

表7 性的接触のあった相手（複数回答）

	全体 (n=63)		男性 (n=39)		女性(n=24)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
特定のパートナー	31	49.2	10	25.6	21	87.5
パートナー以外の特定の相手	6	9.5	5	12.8	1	4.2
性風俗産業従事者	18	28.6	18	46.2	0	0.0
性風俗産業利用者	3	4.8	0	0.0	3	12.5
マッチングアプリ、SNS	2	3.2	2	5.1	0	0.0
マッチングアプリ、SNS以外	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不特定多数	2	3.2	2	5.1	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明	8	12.7	6	15.4	2	8.3

表8 男性の年代別 性的接触のあった相手（複数回答）

割合 (%)	10代	20代	30代	40代	50代	60代
	(n=1)	(n=10)	(n=6)	(n=11)	(n=8)	(n=3)
特定のパートナー	0.0	40.0	33.3	27.3	12.5	0.0
パートナー以外の特定の相手	0.0	20.0	0.0	9.1	25.0	0.0
性風俗産業従事者	0.0	40.0	33.3	36.4	62.5	100.0
性風俗産業利用者	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
マッチングアプリ、SNS	0.0	10.0	16.7	0.0	0.0	0.0
マッチングアプリ、SNS以外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
不特定多数	0.0	0.0	0.0	9.1	12.5	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
不明	100.0	0.0	33.3	18.2	12.5	0.0

## ま と め

本調査より、県内で届出のあった梅毒患者のほとんどは、県内在住・日本国籍・有職者であったが、県外居住者や外国籍の患者、学生も一部いることが明らかになった。また、必ずしも居住地と診断医療機関所在地は一致しておらず、保健所単位だけではなく、県全体での対策が必要であることが示唆された。

受診理由では、「有症状」が最も多く、早期検査・早期診断の重要性が示された。「梅毒陽性者（疑い含む）との性行為」を理由に受診した患者も一定数いたことから、梅毒診断時のパートナーへの受診勧奨も重要である。

性的接触のあった相手について、男性の約半数で「性風俗産業従事者」と回答があったことから、男性の性風俗産業利用者への啓発が有効であると考えられる。

今回の調査において、感染症法に基づく発生届には記載のない有用な情報が得られた。これらの情報を行政施策に反映させるとともに、調査を継続し、県内の梅毒患者発生の状況を収集、還元していく。

## 謝 辞

追加調査にご協力頂いた県内医療機関の先生方に深謝する。

## 参 考 文 献

- 1) 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト、梅毒  
<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/syphilis/010/index.html>
- 2) 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト、感染症発生動向調査年報  
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/annual/2023/archive/index.html>
- 3) 長崎県地域保健推進課 梅毒発生届時の追加調査実施要領（令和6年5月1日施行）